

2024 年 6 月 23 日

「アマチュア無線の魅力向上アイデア」提案書

1. 提案者
 - ・氏名（グループの場合は代表者）：
 - ・年齢：
 - ・コールサイン（局免許保有者の場合）：
 - ・連絡先 住 所：
 - メール：
 - ・（グループの場合）代表者以外の構成員の氏名・年齢：
2. 提案カテゴリー（AまたはBを選択） B
 - A 既に開局している若者や初心者にとっての魅力を一層高めるアイデア
 - B アマチュア無線を知らない若者に興味を抱かせ資格取得を動機づけるアイデア
3. アイディア名：スーパーサイエンスハイスクールとの連携
4. アイディアの概要（200 字以内）：
 - スーパーサイエンスハイスクールなど積極的に理系教育をしている高校と交流を持ち、アマチュア無線を知ってもらうことを提案します。
 - リタイアしたアマチュア無線家を活用するため、JARL 会員・非会員は問わず協力をリスト化し、高校が希望する講義・講演に適合する人を探しやすくします。
 - ワークショップの開催やクラブ活動で指導することで、無線技術に関するプログラムを提供します。
5. 詳細説明（図表を含めて 4 頁以内）：

次世代人材育成事業としてスーパーサイエンスハイスクールの制度があり、約 200 校が指定されている。

これらの高校では理系養育や研究活動も盛んであり、大学教員や卒業生、企業の社員などからの指導も行われている。

この中に無線技術を扱うプログラムが有ることは高校生に対して有意義であり、我々としては積極的に取り組んでもらった方が良い分野になる。

高齢化の進んだアマチュア無線家の中には、現役を退いた大学教員、高校教員といった人材が多数いるのではないかと思うし、企業で後進の指導に当たっていたものも多いと考える。

これらの人を活用できるよう JARL 会員・非会員に関わらず、協力してもらえる人をリスト化する。このリストには講義・講演が可能な分野についても記載し、高校

が望むプログラムに適合している人を探しやすくする。

講義以外にもワークショップを開催したり、クラブ活動の一部として指導したりすることも可能と考えている。

例えば基礎なる AM ラジオとワイヤレスマイクの製作を行えば、微弱電波を使って電波を出して受信することが体験できる。

他には地デジの電波を受信するアンテナを作成・調整してみることで、電波の飛び方を知ることができる。

これ以外にも我々が今まで活動してきた電子工作や電波に関するイベントの多くは活用することができる。

ワークショップ 1 回の参加人数を 40 人、部品代が 1 千円とすれば発生する実費は 4 万である。この程度であれば協力する JARL の支部や地元の無線クラブなどから支出できる範囲であり、すべてボランティアとして活動することも可能である。

もし複数回の開催、通年のクラブ活動への協力であれば、科学技術振興機構から受託しての対応も可能だと思う。この受け皿は一般社団法人である JARL が行えば良く、定款にも反しない事業である。

スーパーサイエンスハイスクール以外にも、都道府県の青少年センターなどがサイエンスキャリアプログラムとして講座を開いていることも多いので、ワークショップで挙げた内容は他でも実施可能なチャンスはあるかと思う。

6. 参考情報（任意）

- ・ 参考資料：資料名 （PDF ファイルを添付）
- ・ Web 情報：タイトル、URL

スーパーサイエンスハイスクール

<https://www.jst.go.jp/cpse/ssh/>

神奈川県 中高生サイエンスキャリアプログラム

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ch3/kagaku/jhscp.html>